

俳句を読み解き表現しよう



本時の目標	図書資料を使って自分で調べたことと俳句の言葉から想像した世界を発信する。
本時を選んだ理由	生徒が調べた内容や想像を広げて感じ取ったことを発表資料として構成するために、タブレット端末を利用すると効果的だと考えた。
前時までの授業の流れ	俳句の歴史や形式の特徴を理解し、図書資料を使って俳句について調べ、「調べたこと」「言葉から読み取れたこと」「想像したこと」をシートにまとめ、様々な形で表現している。

学習の流れ	主な学習活動	ICT活用の留意点
導入	本時の学習活動確認 ① 学習活動を確認する。 俳句を読み解き表現しよう。 ② 学習の見通しをもつ。	【電子黒板】 ・学習方法を示し、イメージをもたせ、スムーズに活動に取り組みできるようにする。
展開	個人の活動 ① 図書館の資料、国語辞典、歳時記、国語便覧等を使って担当する俳句について調べ、シートにまとめる。 ② 俳句から感じたイメージを表す作品を制作する。	【タブレット端末】 ・順番の並べ替えなどにより、発表を意識した構成の工夫について、試行錯誤しながらグループ活動が進められるように促す。
	グループ活動 ① 調べたことをまとめたシートや作品を持ち寄り、組み合わせを考えながらグループとして1つの資料にまとめていく。 ② シートや作品を撮影する。 ③ 撮影した画像を並べ替え、構成を工夫しながら、発表用の資料としてまとめ、教員に提出する。	
終末	発表準備 ① 次時の発表に向け、グループ内で役割分担をする。	

アドバイザーからの一言

放送大学
教育支援センター
教授 中川 一史

限られた言葉から想像の世界を広げる場面の授業である。紙の制作物や書いた句をタブレット端末で撮影し、1つの作品に仕上げていく。このようにデジタルとアナログの組み合わせは、他の国語科授業でも応用可能であると思われる。

アジアの人々の生活について考えよう



本時の目標	アジアの人々の生活について、視点を明確にして検討し、筋道を立てて表現することができる。
本時を選んだ理由	一人一人が自分の主張をまとめた資料をお互いに見合うことや、考えを共有することを大切にしたい場面なので、資料を手元でよく見るためのタブレット端末の活用や、考えを全体で共有するための電子黒板の活用が効果的だと考えた。
前時までの授業の流れ	本時の追求課題について、3つの視点(「ものが増える」「仕事が増える」「情報が増える」)ごとに調べている。

学習の流れ	主な学習活動	ICT活用の留意点
導入	検討ポイントの確認 ① 追求課題を確認する。 今後のアジアの人々の生活がより良くなる一番の要素は何か検討しよう。	
展開	主張と検討 ① 『「情報が増える」ことがアジアの人々の生活をよりよいものにする一番の要素である』ことに対し、反対と賛成の立場に分かれ根拠を持って主張する。 ② 他者の主張内容を検討し、意見を付箋紙に書き込んで渡す。	【タブレット端末】 ・それぞれの主張をタブレット端末に表示し細部を見ながら検討できるようにする。
終末	練り直し ① 検討内容や検討にあたっての留意点を全体で共有する。 ② 付箋紙に書き込まれた友達の見解を参考にし、検討内容の精査を行う。	【電子黒板】 ・代表生徒のワークシートを映し、留意点やポイントについて補足しながら共有する。

アドバイザーからの一言

東京学芸大学教育学部
教授 川崎 誠司

一般に討論活動では発言を耳で聞くだけでは、相互の内容理解がしにくいものです。発言者のワークシートをグループ内で共有して熟読することで相互理解が深まり、丁寧な批判が繰り返される討論が展開されました。

近畿地方の環境保全について考えよう



本時の目標	ペアで作成した環境保全を提唱するポスターの良い点を見だし共有することで、環境保全の重要性を考察するとともに、持続可能な社会づくりのためには、地域における環境保全の取組が不可欠であることについて考える。
本時を選んだ理由	生徒の学習活動の成果を整理したり発表したりする場面において、タブレット端末は機能的に優れているので、学習成果を整理・発表・共有する本時の学習活動に生かせると考えた。
前時までの授業の流れ	前時までに、近畿地方の地域的特色と地域の持続発展の在り方をとらえ、持続可能な社会づくりのためには地域における環境保全の取組が不可欠であることについて考え、タブレット端末を活用してポスターを作成している。

学習の流れ	主な学習活動	ICT活用の留意点
導入	前時までの振り返り ① 前時までに作成したポスターを見ながら環境保全に対する主張を再確認し、ワークシートに書き込む。 作成した環境ポスターを評価し近畿地方の環境保全について自分の主張を提唱しよう。	【タブレット端末】 ・作成済のポスターをタブレット端末上で見直しながら、ワークシートに環境保全についての主張を書き込ませる。
展開	ペアワーク ① 他のペアが作成したポスターを見て良い所を見付け、付箋機能を使って示す。 ② 評価が高かったペアが作品の工夫点や環境保全に対する提唱を発表する。	【タブレット端末】 ・タブレット端末上で他ペアのポスターを見ながら、付箋機能で良いところを書き込ませる。 【電子黒板】 ・ポスターを電子黒板に拡大提示し、わかりやすく発表させる。
終末	振り返り ① 他のペアのポスターから学んだことをワークシートに記録する。 ② 本単元全体についての感想を発表する。	

アドバイザーからの一言 東京学芸大学教育学部 教授 川崎 誠司

付箋機能を応用した投票機能を、よいところを評価し合う活動に用いている。各ペア3枚の付箋が与えられて平等が保障され、かつ投票の匿名性も確保されるという、必要な条件が踏まえられた相互評価活動となっている。

多角形の外角の和を求めよう



本時の目標	多角形の外角の和の求め方について考え、その性質を理解することができる。
本時を選んだ理由	ICTを活用することで課題解決に向けたイメージを生徒に与え、生徒が意欲的に課題解決できると考えた。また、生徒の考えを電子黒板に提示することで、多くの生徒が活動できる場をもてると考えた。
前時までの授業の流れ	前時では、「多角形の内角の和」を多様な考え方で求める学習をしている。

学習の流れ	主な学習活動	ICT活用の留意点
導入	既習事項の確認 ① 既習事項の確認をする。 ② 本時の課題を確認する。 多角形の外角の和について考えよう。	【電子黒板】 ・自作教材を提示し、既習事項の確認を効率的に行う。
展開	課題解決 ① 学習の要点を全体で確認する。 ② 多角形の内角の和の求め方を考える。 ③ 多角形の外角の和の性質を考える。	【電子黒板/自作教材】 ・自作教材を提示し、本時の課題を全員で把握する。 ・個々のワークシートを電子黒板に拡大提示して発表させる。
終末	まとめ ① 多角形の外角の和の性質を確認する。 ② ワークシートを用いて問題を解く。 ③ 自己評価カードで授業を振り返る。	【電子黒板】 ・アニメーションを活用し、外角の和が360度になることを提示し、理解を深める。

アドバイザーからの一言 千葉県柏市立 中原小学校 校長 西田 光昭

図形を作図しよく観察するために、手書きのワークシートをデジタル化することで、全体での確認の場面にも生かされています。角の大きさを、筋道を立てて推論し、その確認のためにアニメーションが生かされています。

電化製品は並列回路につながっていることを計算で確かめよう



本時の目標

家電製品の回路について電圧と電流との関係を予想し、進んで発表しようとする。
回路に成り立つ諸法則を用いて、未知の電流や電圧、電気抵抗を計算することができる。

本時を選んだ理由

ICTを活用しグループワークや全体発表を行うことで、お互いの考えを共有し、より考えを深めることができると考えた。

前時までの授業の流れ 前時までには、身近にある家庭用の電化製品は並列回路でつながっていることを実験で確かめている。

学習の流れ	主な学習活動	ICT活用の留意点
導入	問題を見出す ① 本時の課題を全体で共有する。 電化製品は並列回路につながっていることを計算で確かめよう。	【電子黒板】 ・アニメーションを活用して課題を提示し理解の促進を図る。
展開	課題の解決 ① 前時までの実験を振り返りながら個人で計算式を考える。 ② グループで話し合い、意見をまとめる。 ③ グループの考えを全体で共有する。 ④ 他のグループの考えも参考にしながら、さらに個人で考察する。 ⑤ 再度グループで話し合う。 ⑥ 考察結果を発表する。	【タブレット端末】 ・タブレット端末上で何度も書いたり消したりしながら思考を深められるようにする。 【電子黒板】 ・グループの考えを電子黒板に提示して発表し、全体で共有できるようにする。
終末	まとめ ① 本時の学習を板書でまとめる。	

アドバイザーからの一言

鳴門教育大学大学院
准教授 藤村 裕一

タブレット端末を思考のツールとして活用するには、拡大や縮小をして何度も繰り返し書き直しながら考えることを日常化し、不慣れなために思考が妨げられることがないようにすることが必要です。また、タブレット端末は、家庭や地域の自然現象等を撮影して、学習の場に持ち込むのに最適のツールです。



中学校 2年 理科



中学校 2年 数学科



中学校 2年 社会科

気象データや天気図から天気を予測しよう!



本時の目標 気象データや天気図から天気を予測することができる。

本時を選んだ理由 学習事項を基にタブレット端末を活用して天気を予測し、そこで出た疑問について、テレビ会議システムを利用して遠隔地にいる専門家に教えてもらうことで、理解を深めることができると考えた。

前時までの授業の流れ 「天気とその変化」の単元の学習を行った。

① (25時間目 / 27時間扱い)

学習の流れ	主な学習活動	ICT活用の留意点
導入 課題の把握	<ul style="list-style-type: none"> ① 学習課題と活動の方法を把握する。 気象データや天気図からこの後の天気を予測しよう! 	
展開 天気の予測	<ul style="list-style-type: none"> ① 気象データや天気図からその後の天気を個人で予測する。 ② グループで話し合い、意見をまとめる。 	【タブレット端末】 ・デジタル化されたワークシートに説明する内容を書き込ませ、自分の考えをまとめさせる。
終末 意見のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ① グループでまとめた天気の予測を発表する。 ② 次時の学習内容を共有する。 	【電子黒板】 ・各グループのワークシートを提示し、参考にした意見を書き込んで示しながら発表させ、全体で共有する。

(26時間目 / 27時間扱い)

学習の流れ	主な学習活動	ICT活用の留意点
導入 結果の考察	<ul style="list-style-type: none"> ① 気象庁が発表した天気図を見ながら自分たちの予測との共通点と相違点を見付け出す。 予測した天気図と実際の天気図を比較し、結果を考察しよう! 	【タブレット端末】 ・天気図のワークシートに自分たちの予測と正解を色分けして書き込ませ、グループでの議論を促す。
展開 考察内容の発表	<ul style="list-style-type: none"> ① 予測と実際の天気図の比較内容を発表し、全体で共有する。 	【電子黒板】 ・各グループのワークシートを提示し、発表させ、全体で共有する。
終末 質問項目の整理	<ul style="list-style-type: none"> ① 疑問点を全体で共有し、次時の専門家(気象予報士)への質問を考える。 	

② (27時間目 / 27時間扱い)

学習の流れ	主な学習活動	ICT活用の留意点
導入 課題の把握	<ul style="list-style-type: none"> ① 課題を把握する。 気象予報士に聞いてみよう! 	
展開 遠隔授業	<ul style="list-style-type: none"> ① 遠隔地にいる気象予報士に用意していた質問をする。 ② 聞き取った事項をワークシートに記入する。 	【電子黒板】【テレビ会議システム】 ・テレビ会議システムを活用して、遠隔地にいる気象予報士に質問をすることができるようにする。 ・気象予報士に、テレビ会議の画面上に必要な資料を提示しながら説明してもらうように、事前に打ち合わせておく。
終末 本時の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ① 気象予報士の説明を聞いた後、自分の取組を振り返る。 	

アドバイザーからの一言

鳴門教育大学大学院
准教授 藤村 裕一

タブレット端末を使ってグループ活動する時は、一人一人の科学的思考を保障するために1人1台が推奨されます。グループに数台しかない時は、一人一人の思考は紙に書き、それを基に意見交換した結果をタブレット端末に記入し、電子黒板で共有するようにしましょう。
理科の「遠隔地とつなぐ授業」を学習のねらいに沿って効果的なものにするには、教員の意図と子供の考えを事前に知らせるなど、綿密な打合せが必要です。また、特定の機関に要望が集中しないよう、可能な限り地域の機関に協力を求めることも必要です。

わたしのデザインバーコードをつくろう!



本時の目標	形や色彩などの造形的な特徴を基に、自分の感覚やこれまでの経験などを生かして主題を生みだし、映像メディアの特性を生かして創造的に表現する。
本時を選んだ理由	本題材でICTを使う効果として①生徒の知的好奇心を高める②これから作る作品のイメージをもつ③生徒同士のアイデアの共有を図るといったことなどが考えられる。それに加えて、何度でもやり直しができたり、取り込みや貼り付け、形の自由な変形、配置換え、色彩換えなど、様々な試行錯誤ができるよさもある。そうしたICTのよさを生かすことで、すべての生徒が発想や構想したことを具現化することができると思った。
前時までの授業の流れ	本時の授業の前提となるコンピュータ操作に関しては、基本となるソフトウェアやインターネットを活用する上での基本操作を他教科で習得している。

学習の流れ	主な学習活動	ICT活用の留意点
導入	課題の把握と発想や構想 ① 既存のデザインバーコードを鑑賞し、共通点を見つけて発想の着眼点を探る。 ② デザインバーコードをグループ分けし、着眼点について整理する。 ③ 本時の学習課題について把握する。 わたしのデザインバーコードをつくろう。	【電子黒板】 ・共通点を見付けるためのヒントとなる画像を提示し、興味をもたせながら着眼点を明確にする。
展開	制作と発表 ① 制作の手順を理解し、学習の見直しをもつ。 ② 付箋を用いてアイデアを出し合い、主題を生みだす。 ③ 主題を基に、コンピュータを用いて、わたしのデザインバーコードを制作する。 ④ 特徴的な生徒の作品を共有する。	【タブレット端末】 ・ペイントソフトを使って描いたり、インターネット上のフリー素材などを活用したりするなど、主題に応じて方法を選び、わたしのデザインバーコードを表現できるようにする。
まとめ	振り返り ① 学習活動の記録に、気付いた点や工夫した点などを記入する。	

アドバイザーからの一言

放送大学
教育支援センター
教授 中川 一史

バーコードの仲間分けなど動かすやすく俯瞰してみるところでは紙(画用紙、付箋紙等)を使い、加工や修正を何度も行うところでは、タブレット端末を使っています。また、著作権についても、タイミング良く指導を行っています。

フラッグを使って創作ダンスをしよう



本時の目標	表したいテーマにふさわしいイメージを強調し、個人や集団の動きで表現することができる。
本時を選んだ理由	表したいテーマが表現できているか動画を視聴し、他のグループから改善点を指摘してもらったともに修正することができる。
前時までの授業の流れ	表したいテーマを設定し、個々がイメージした動きをグループ内で見合って意見を出しあい、グループの動きをつくってきた。

学習の流れ	主な学習活動	ICT活用の留意点
はじめ	① 本時の学習課題を把握する。 表したいテーマにふさわしいイメージを強調し、個人や集団の動きで表現することができる。 ② 本時で創り上げたい表現について、テーマとともに発表する。	
なか	① 前時の表現を撮影した映像をグループ間で見せ合って、意図したイメージが表現されているかについての意見を付箋に書きアドバイスする。 ② 付箋に書かれたアドバイスを読み、表現の改善点を確認する。 ③ 他のグループからの意見を参考にし、表現の工夫をしながら練習を行う。 ④ ダンスを動画で撮影し、強調したいイメージが表現されているか確認しながら、動きを工夫する。	【タブレット端末】 ・効率的に視聴し合い、活動時間を確保することができるように、動きを確認する場面を選択しておく。 【タブレット端末】 ・イメージを確認したい場面については、練習中も適宜撮影を行い、動きを確認する。
おわり	① 本時を振り返り、学習カードに改善点を記入する。 ② 改善した点を発表する。	

アドバイザーからの一言

千葉県柏市立
中原小学校
校長 西田 光昭

グループでテーマをもとにイメージを共有して動きを表現するために、タブレット端末での動画撮影が生かされています。他のグループからのコメントをもとにさらに工夫し、動画を活用して動きながら話し合い、まとまりのあるダンスを作り上げています。

構造と強度の関係を考えて設計にいかそう



本時の目標 構造が破壊されるときの映像や破断前の構造の写真を見たり話し合ったりすることを通して、強い構造の特徴を見出すことができる。構造と強度の関係に関心をもち、自分の作品の設計に生かそうとしている。

本時を選んだ理由 実験の様子を動画で撮影しておくことで、構造が壊れる寸前や壊れる瞬間の様子を観察することができ、強い構造の特徴を見出すことに役立つと考えた。

前時までの授業の流れ 強度を高めるための構造設計をし、木質材料で構造を作り、破断実験を実施。その様子をビデオ撮影。

学習の流れ	主な学習活動	ICT活用の留意点
導入	<p>課題の確認</p> <p>① 構造の壊れる寸前の様子を視聴し、強い構造にどのような特徴があるのか観察する。 上位3つの構造はなぜ強度が高まったのか考えよう。</p>	<p>【タブレット端末】</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真を配信し、それぞれの構造の特徴を観察できるようにする。
展開	<p>グループワーク</p> <p>① 構造の内部にはどのように力が伝わっているかを考える。 ② 強度の高い構造の特徴は何か、力と形状の関係に着目してグループで意見をまとめる。 ③ グループでまとめた意見を発表して全体で共有する。</p>	<p>【タブレット端末】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループでまとめた意見をタブレット端末に書き込ませる。 <p>【電子黒板】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとの考えを集約し、発表時に大きく提示し、全体で共有できるようにする。
終末	<p>まとめ</p> <p>① 各グループの考えを参考にし、強い構造の特徴を理解する。</p>	

アドバイザーからの一言

放送大学
教育支援センター
教授 中川 一史

強い構造の特徴を理解する授業です。タブレット端末でできる、「撮る」「書き込む」「大きくする」「見せる」「送る」というオールインワンの機能をフルに活用しています。板書や電子黒板との組み合わせも重要です。

中学校 **1** 年 / 技術・家庭科 製作品の設計をしよう

良いTechnologyとは何か考えよう



本時の目標 製品を設計する際に、使用目的・使用条件だけではなく、環境的側面・経済的側面・社会的側面(安全)からよりよい製品を考えることができる。

本時を選んだ理由 よいTechnologyとは何かを考えるために、個人→グループ→学級→個人という学習の流れをつくる。その流れを有機的につなげるために、情報をまとめたり共有したりすることができるICT機器が有用であると考えた。

前時までの授業の流れ 前時に使用条件や目的について考えて、LEDライトの設計を行っている。

学習の流れ	主な学習活動	ICT活用の留意点
導入	<p>めあての確認</p> <p>① めあてを確認する。 良いTechnologyとは何か考えよう。</p>	
展開	<p>グループワーク</p> <p>① よい自動車とは何かをカタログを参考に考え、ワークシートに記入する。 ② 個人の意見をもとにグループで話し合い、まとめた意見をタブレット端末で記録する。 ③ 他のグループに対してプレゼンテーションを行う。 ④ 各グループの意見を電子黒板に映し共通点をまとめる。</p>	<p>【タブレット端末】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループでまとめた意見を記録し、他のグループへのプレゼンテーションを行う時に使用する。 <p>【電子黒板】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループの意見を電子黒板に映し、共通点をまとめていく。
終末	<p>まとめ</p> <p>① 各グループの意見を参考にしながら自分の考えをまとめ直しワークシートに記述する。</p>	

アドバイザーからの一言

放送大学
教育支援センター
教授 中川 一史

個別からグループ、全体へと学習形態を変えながら「設計する際に重要な点」についての考えを深めていく授業です。タブレット端末が、個別での情報収集、グループでの情報整理、意見交換とさまざまな目的で使われています。

自分たちの音声入りオーディオブックを作ろう

本時の目標 既習の内容を活用して簡単な英語の物語に慣れ親しむ。

本時を選んだ理由 be動詞、一般動詞、wh-疑問文などが入っており、生徒がよく知っている物語で内容も理解しやすく、これまでの学習内容の復習にふさわしいと考えた。

前時までの授業の流れ 前時までに、be動詞、一般動詞、wh-疑問文を学習。

学習の流れ	主な学習活動		ICT活用の留意点
導入	題材の提示	<ol style="list-style-type: none"> 学習内容を確認する。 自分たちの音声を入れたオーディオブックを作ろう。 1: About "Humpty Dumpty" 2: Reading Practice 3: Understanding 4: Project— Making "an audio book" 	
展開	一斉練習	<ol style="list-style-type: none"> マザーグース Humpty Dumptyの歌を聞く。 物語の音読一斉練習を行う。 	【電子黒板/デジタル教科書】 ・デジタル教科書の読み上げ機能を活用し音読練習を行う。
	個別練習 ペアワーク	<ol style="list-style-type: none"> 音読の個人練習を行う。 チェックシートを用いてペアやグループでお互いの音読をチェックし合う。 	【タブレット端末/ポータルサイト】 ・ポータルサイトから個々に教材をダウンロードできるようにする。
	グループワーク	<ol style="list-style-type: none"> グループごとにオーディオブックを作成する。 	【タブレット端末/授業支援ツール】 ・音声を録音し、絵と組み合わせてオーディオブックを作成できるようにする。
まとめ	発表	<ol style="list-style-type: none"> グループごとに作成したオーディオブックを発表する。 他のグループの作品を評価する。 	【タブレット端末/電子黒板】 ・タブレット端末から電子黒板にオーディオブックのデータを送信し、全体で共有できるようにする。

アドバイザーからの一言

東京外国語大学大学院 教授 投野 由紀夫 常に生徒を動かす工夫、タブレット端末を使った協働学習、教員自作の教材による内容理解にも踏み込むなど創意工夫にあふれたリーディングの授業です。自己表現として使えるフレーズを本文からピックアップしたらもっと効果的です。

電車の乗り方を案内しよう

本時の目標 外国人に電車の乗り方を案内する。

本時を選んだ理由 習熟度に応じたスライドや動画を活用することが効果的だと考えた。

前時までの授業の流れ 第1,2時間目で3人称単数現在形の肯定文を学習。

学習の流れ	主な学習活動		ICT活用の留意点
導入	題材の提示	<ol style="list-style-type: none"> 本時の学習について把握する。 外国人に電車の乗り方を案内しよう。 	
展開	会話練習	<ol style="list-style-type: none"> 例文を参考にしながら会話の練習をする。 ペアワークで会話の練習をし、相互に評価する。 	【タブレット端末/自作動画教材】 ・習熟度に応じて、スライドや動画教材を選択できるようにする。 【電子黒板】 ・生徒個々のタブレット端末の画面を映し出し、練習の状況を把握する。
まとめ	発表	<ol style="list-style-type: none"> 先生を外国人に見立て、電車の乗り方を案内する。 	

アドバイザーからの一言

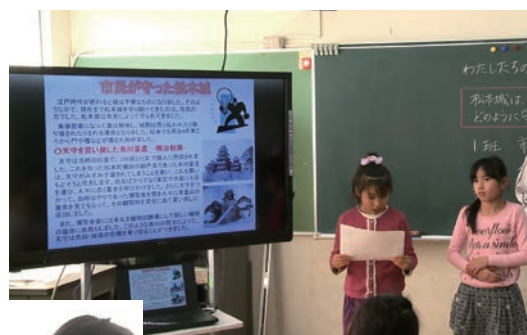
東京外国語大学大学院 教授 投野 由紀夫 オリンピック会場への電車案内という実用的な場面設定で、習熟度に応じて準備された練習用動画などを選ぶようにしている点が光ります。単なる暗記にならないように何か自分の言いたい一言を会話に付け加えてみるとリアルになります。

陥りがちな授業

導入当初に陥りがちなICT活用の授業風景と解説をセットにした映像を収録しました。効果的なICT活用のあり方について一度「立ち止まって考えてみる」ために校内研修等でご活用ください。

事例	ICT機器		内容
① 小学校4年 算数科 「がい数」	電子黒板	教員	電子黒板での教材・資料等を提示する際に陥りがちなポイントを紹介
② 小学校4年 社会科 「わたしたちの県」	電子黒板	児童生徒	児童生徒の発表における資料の作成や提示方法を指導する際に陥りがちなポイントを紹介
③ 小学校5年 理科 「電流がうみ出す力」	タブレット端末	児童生徒	タブレット端末の動画撮影機能を活用する際に陥りがちなポイントを紹介
④ 小学校4年 国語科 「ことわざについて調べよう」	タブレット端末	教員	タブレット端末に電子化されたワークシートなどを配布する際に陥りがちなポイントを紹介

(解説 放送大学教育支援センター教授 中川 一史)



ICTを活用した教育の推進に資する実証事業 ICTの活用が最適な指導方法の開発ワーキンググループ

■実証校一覧

<小学校>

秋田県八峰町立八森小学校
福島県新地町立新地小学校
栃木県大田原市立両郷中央小学校
栃木県那須塩原市立豊浦小学校
東京都港区立高輪台小学校
東京都板橋区立板橋第一小学校
滋賀県草津市立志津小学校
鹿児島県霧島市立向花小学校

<中学校>

福島県新地町立尚英中学校
東京都板橋区立赤塚第二中学校
横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校
愛知県岡崎市立甲山中学校
愛知教育大学附属名古屋中学校
京都府(私立)同志社中学校
三重県松阪市立三雲中学校
沖縄県宮古島市立下地中学校

■委員一覧(50音順)

座長	赤堀 侃司	白鷗大学教育学部長
委員	井上 文敏	東京都港区教育委員会指導室 情報教育専門官
委員	宇治橋 祐之	日本放送協会放送文化研究所 主任研究員
委員	尾島 正敏	岡山県倉敷市立豊洲小学校 校長
委員	川崎 誠司	東京学芸大学教育学部 教授
委員	投野 由紀夫	東京外国語大学大学院 教授
委員	中川 一史	放送大学教育支援センター 教授
委員	西田 光昭	千葉県柏市立中原小学校 校長
委員	藤村 裕一	鳴門教育大学大学院 准教授

「ICT活用ステップアップ映像集」利用ガイド

編集 ICTを活用した教育の推進に資する実証事業
ICTの活用が最適な指導方法の開発ワーキンググループ

発行 2015年3月
NTTラーニングシステムズ株式会社
教育ICT推進部
〒106-8566 東京都港区南麻布1-6-15 アーバンネット麻布ビル
TEL: 03-5419-7219 FAX: 03-3457-2125
e-mail: with-school2020@nttls.co.jp

